



陽明書院藏



15
6490

010186021644

丁未年思ひの道りゆのさほふのさりちと
同業は情事の園芸の道骨を城を先
まゝりし出まらばあはれりゆのさりちと
とらおほしき道りゆのさりちと
むらゝるる道りゆのさりちと
おまゝりし出まらばあはれりゆのさりちと
ゆりてゆりあはれりゆのさりちと

弘化丙午秋

水休



百穀作譜と連歌

揮筆從極

夕露やいづこを道の少くも
くぬぬ新もく平きまは乃月
秋そらま雲の虫にとりつきて
子鹿脚のかくうきつらある
汝乃まことら八段あは川さ
何のんらまことら子鹿毛

塞馬
石采
水竹
桐古
蓬宇
真山



かきわたり舟のむらさきさしちまふ
 且富
 みきり啼き みるきききき
 流芝
 丸のうらなふきききききききききき
 一武
 きききききききききききききききき
 茶園
 祇の路の施まきわきききききききききき
 喜可
 おのひきききききききききききききききき
 波文
 流きききききききききききききききき
 惟一
 鏡きききききききききききききききき
 氷酒

おけり吹きききききききききききききききき
 清泉
 嵐乃よりきききききききききききききききき
 杜水
 舟におきてきききききききききききききききき
 蕨雲
 ききききききききききききききききききききき
 輝木
 舟掛乃向ふへきききききききききききききききき
 喜雀
 むらり月此きききききききききききききききき
 茂東
 わききききききききききききききききききききき
 草犬
 系代けりきききききききききききききききき
 守山

産のありしと云はる屏風
ほろりしと云はる一
る具しけわりの持てるやと云は
留す居るもいふる夏籠乃うら
ぬす代の何よの長と云はる山
峰と云はるゆると云はる緑法と
利刀の又もつけと云はる狭研
日南へ大れをさけと云はる

東石
飛雪
一窓
昌風
宜彦
蔭光
竹浦
樹石

墨候の末そと云はる
おろり色めやと云はるやり留
と云はるハ禁つけと云はる
者引と云はるぬ者と云はる
吟酒のまきと云はる仕舞
と云はるのうらやと云はる
むれ書よと云はるほと云はる
果と云はる新橋と云はる

翠錦
一
藍川
星水
臺仙
管曉
汝堂
為中

張るくきしむ隣子比うさき寄
 竹阜
 苦もくぬくまきし甲あ百の巻
 甫汲
 緒上ゆきとくさるく口をさ
 左夢
 納涼さきもかあれとくし
 蚊犬
 本免紙そのけ家鴨の針あせり
 露石
 米よ里路の草加よりさよ
 六輝
 けしの月曇さうりく日如く
 華所
 元くくさるぬ沙魚さうりあり
 底知

町中の蔭いさりりな砂あさり
 蒼尾
 あくくめ前ふねうさくおく
 猪水
 引物きんさうんさくはう里
 三岳
 葉も揚りきよめさうりふ都さり
 梅史
 色かきおしむらうらうら
 吹角
 花もれささあめしれぬ浪人
 玉養
 井戸さくさみ深の持付をかわりて
 畝曲
 さくさくわむの法を介し
 箱居

三才

三

世話うけてゆくぬわつらき徳也り
とらふてふかきく鶴のつらふく
重千重のふらふらふのちうつら
と川に思ふ此多いふ川に思
穢多全の吾慈いつぬ僅位了
各よ思合ぬ瘡わ川らよ
藤橋のうけ智障よを中流く
とらふてふ乃あふふ三日有比思

五英
松風
百川
里敦
永考
梧容
文郁
登嘉

紐とらふて徳は志志あふつらて紙
出代先をきめてまのこ正長系
^三船政の志志あふつらて紙をゆけ
とらふて法まきえらふ寺乃夢業
吾思ハ志のけぬわらの思思わ
根原の松は夢業く新るく
九重や夢よりおらるる思思わ
これ雷耳——後架く思思わ

柳雲
青池
久喜
浦筆
松沙
素布
洗竹
魚雪

かつこめる魚の尾丁きあつたうり
長生甲斐くし 西末以まきく
うきむすれ敷よき 鳴鶴此月
末社の縁を 押しよきく 葉
面葉の端のそよこ元れあり
あきくこい小える 系此新色
お解し きのちよき 峯をぬむのうち
よ知し 空をくし 戸 植をくさるふ

蕨泉
文来
二春
孤城
久之
風粟
完伍
竹芳

^才
お持の承き百あしよしよき
ふそりしと 後言ひしりし
山の家のまきり連くし 葉を
即く 押職乃 衣柳まきりし
強し 竹の子 伴し 好ま 庭
小松く きのりる 海を 夢れ 葉
庭ありし 子 影を ねん ころりし
ほ 連うけしよし 乃 知る 巖 角

林章
春圃
柳鳩
蒼龍
茄月
枝墨
岡南
秩平

ちほほ〜とあはれ此牛の胸は次
 ほ〜〜〜雪のつらさをさる
 蕭条ふも又松〜きねの木の
 人〜〜わらる厄乃き〜ちひ
 差豆の葉の〜〜くすね此林
 本〜〜ゆける峰の雲より
 ふ〜〜別ぬ城の影を〜あり
 光出〜〜あま〜〜のむら〜〜る

樟 雨
 其 色
 碧 竹
 若 仙
 鳥 谷
 金 芳
 洞 月
 嵐 袋

賑はを〜〜わ〜〜る市を取
 黒は〜〜た〜〜ま〜〜ある海
 姐板のう〜〜と割〜〜く
 万〜〜く〜〜の〜〜た〜〜り
 ち〜〜ま〜〜の〜〜の〜〜め
 ち〜〜の〜〜の〜〜の〜〜

古 梁
 二 津
 其 表
 結 橋
 朱 芳
 靴 草

山名考
 山名考

連流九十三人

代巻上人

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '水竹' and '波文'.

いづれの句にお祈りあけまの

甲—喜あれハ初也を畧せん

なまきりつゝまて松懸—菴の松

水竹

けりふちりくまも松—る渡う車

波文

川もも洞もむきまや庵のあ紀

菴園

おもひや—みむすも松海—

可研

あ—りう松のあうあも—りり々々

嵐袋

人あれハよるの—もみ—りあの松

携方

此の月のけりしりし秋夜中
かきとらおのぬ枝の入りの家
菊井
文郁

かきとらおのぬ枝の入りの家
鶯酒

月見のもたふさぬ珠粒や枝の上
惟一

ともしくしんそくぬ枝の月
三岳

うはむけのぬくもさやかの光
一武

本ころきしんそくぬ枝の星の光
直彦

晴るる海をきりや月を空
来鶴

おのぬ枝のぬくぬくぬ枝の光
荀美

雲の月をぬくぬくぬ枝の光
花光

とふふふのぬくぬくぬ枝の光
青白

雲をぬくぬくぬ枝の光
澄露

うやまのぬくぬくぬ枝の光
景園

晴るるもさるもさるもさるもさるも
大野

山をぬくぬくぬ枝の光
星水

舞臺より月にかざれく風の音
よのちのまよとおもふゆゆの音
日影をくおらにほるるゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音

葉雨
与臨
里臨
二春
五春
林春
梅史
春池

うくるよなるとりく月此猿
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音
あそびのまよとおもふゆゆの音

文哉
岡南
燕尾
翠祿
柳喜
流芝
涼花
葦仙

川水も 西へききこえて 船の力
入月や 露も 暖ま ぬきり けふ
月夜も 何れ 志きりや その原
そのも 本も こそよき 船なり 月の結
入あふ 乃こそ びりや 林のこ
船の 山へ 光あきし 月も 西
道は 舟へ 二枚の 月も おもひ 舟り

朱芳
其美
藍川
一應
吹角
昌風
景月

日の 舟や 舟も 舟なり 舟は 苦
そのも 舟も 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟
舟の 舟は 舟なり 舟の 舟り 舟

溯月
青可
茂東
南輝
其篤
橋取
市井
仙菓

心やしとそものまをそく小袂りな
 行末
 花を散よわ〜〜〜〜〜
 李雪
 淋〜〜の果えは〜〜〜〜ぬ露吻り
 栞岡
 散てのら露のつと〜〜〜
 柳月
 眼のこの〜り〜
 季崔
 一吹のあ〜
 露苔
 毛〜り〜
 雪斗
 暮るぬ〜
 杏雨

夕露よ〜
 可松
 露を〜
 朱露
 露ハ〜
 み風女
 露よ〜
 久之
 志〜
 栞古
 更〜
 白羽
 花を散〜
 枝墨

閑伽棚よりほろ夕日や秋の毛

自蓬

らゆるをこしん 石木権志のまをり

梧芳

志のゆきをんもほのぬ葉茶の風

柿巷

けいあきや眼よりくくと秋の蝶

五階

飛けきにとまわりみなりまは蝶

一栖

えらりうたのまねきこい秋のまよ

秋楯

秋の蝶まよ入日まきしんけり

柳塙

主

まゆきやねらうぬけし秋の蝶

尺南

おのこよふ秋よすうきや秋のまよ

只樂

風よりしん 秋よこりまきしん 如常

年々

然しその十寸極のまうこまけり

春菴

汐のまきしん 吹くすまきしん

如翠

極きやまきしん 風き片便

守山

降る成志つかりおまきまきしん

清鼻

口

芒ふくうもさくし 波の何と
野も山も芒うもさくし夕けり
西あつりさけやまもさくしのさくし

柯東
其城
初石

啼くもさくし 一もさくし
さまふくし中もさくし
相にさくし 鳴きもさくし
お風や 鳥一もさくし

杜水
宜喜
飛雪
月啼

三

たれもさくし 一もさくし
志つるも 鷹ふさくし
野もさくし 野もさくし
あもさくし 鷹ふさくし
義もさくし 鷹ふさくし
のもさくし 鷹ふさくし
さくし 鷹ふさくし

里敬
百彦
竹苗
西八
索石
梅市
鳥谷

U

吾路ありき先多向けり事乃を凡
それとさくさくさもわづし寸まのふ
あつらひも抄め事やうさのさ家
何んともさあさあさや木の叶

伯耳
白路
鷲嶺
仙臺

朝のや止嵐の根もあさぬ起る
朝のやあつらひくされぬ片さより
山ひら越へたれさるささる凡

蓬宇
金芳
斗南

十四

杖をきし松乃さるさ明り
鐘の音もあつらひ木の葉さる凡
燈のほくさつらひささるさつらひ
彫きや縁へ照るささるささる凡

其意
吾牛
如昇
蒼霧
文書
藤雪
湫曲

四

おきい出のつものぬ梅もや林の目
船よりまきよやうらよるれ雨
かきりあまのうらや林の目
抱こしほもももやあはれの雨

札氏
李幹
古梁
茂翠

吾語時雨けしきまがさうあゆむ
けふうの年一あぢやほゆこれ
西木の木に星ハうらうらとて

貞山
氷清
雨暮

鶯ももやみこれるもや歌一と
余は事一にあつぬ喜やほゆ志を託
油たれきゆるさるもや歌の時自
ささきも小森も志をうらふあまの
古の山や松をわうぬ吾語一と
亡體一うらなみたや霧の時雨

鶯石
雉水
雪橋
雪竹
鉄平
柳居

やうももあまのうらや林の目

碧山

けしとらよ今日身うもや枝の風
枝のせやあましく残る波の臨
照しそを吹をさしけり枝のうを
阿のうまに枝の風をめるおまらふ
物もさふおはまをわけを枝の風
たのしそそのうへふくあまの風
限もさふおまをさしけり枝の風

喜坡
桃雲
淡如
子悟
士兼
布志
素樂

今一度雪の吹をさしよあまのそら
水もさふうへそはぬ枝のうを
日のうへくおまをさしけり枝のうを
多物もさふおまをさしけり枝のうを
門のうへくおまをさしけり枝のうを
おまをさしけり枝のうを

樗平
玉苔
粟谷
南鶴
芋丈
五樂

閑伽の水おほえそ 林ハ澄みけり 為中

ききゆりきして 暮りけり 林のふ 猪水

この影のきして 徳前 林の水 高峯

秋涼 漱のしりらる 之はの井と 赤考

星影やあくれぬあ 閑伽のふ 活水

穠よふきを おきハ 影をさ 松をさ 雁月

片けり 林のあとの 松をさむ我 壺仙

あまきり 比ふよけり みの松をさる 桑橙

風音く 一葉の伴 一松をさる 巴鳥

儂れちあがり 一とらよき 白き身 梧客

そのうかく 風も耳 一松をさる 丁々

顔くもく あそく 一つむく 松をさる 樗舟

悔のふく やく 一つむく 松をさる 完伍

ゆき道の 少とく 一つむく 松をさる 李明

松了 吟 一のちあひけり 牧丈

日乃く成りていふよはくもく
吾後まの青とありぬるあふのあ

黄龍
浦筆

けさの只一節のさぬ野の

洗竹

風を——もぬるふれもる栗の秋

輪法

かきりあるささるるぬるのわづれ

圭布

か 先の照りてもさるるまのふ

松子

三

唯くくる葉のうもはまぬ松もむ

樟白

けさのや葉のほろりも向を

耕字

けさの日も葉のむもくもくわあせ

蒼尾

けさの月も葉のむもくもくわあせ

鶴水

けさのや葉のむもくもくわあせ

菰月

けさのや葉のむもくもくわあせ

松風

けさのや葉のむもくもくわあせ

寛備

けさのや葉のむもくもくわあせ

松雪

武栗
花泉
大いせは色の海しき草薙の

蓮の露のぬきや出きや池の面
種雪

庭高
庭高やさひのあふる風

埜原
左部の露のまきはあはれさふ

南汲
多れの色くはれしちあはれ

魁南
まきやあはれさふさふさふ

魚音
一吹よさるぬくちりし柳の家

其扇
まらさるぬくちりし柳の家

色林
まらさるぬくちりし柳の家

荷太
拵言のつよえくさるまぬて

竹亭
うしろしめあはれさふさふ

文来
秋の給をさふくさなりけり

抱布の捨つな

抱布

孤株のあや

孤株

末梢のあや

竹山

果のあや

風茹

又のあや

葉中

又のあや

百川

秋哉

秋哉

如流

如流

管院

管院

六塔

六塔

規外

規外

竹友

竹友

新中つと毛とあはひききしつゝ花の香
きくもさる花もさつとや魂よりも
山 壺
石 采

石をさつとさる雨の解成わきれ今わ
甚 堂

きくもさるれく花もさつと守新海は
樹 石

移成くさつとさ佛の立日を成
柳 涯

きくもさるく花もさつとさあのみも
畔 金

花もさるや甲午九らさなつとつと
葉 石

蓮華初花未とハ初三日をりふと
蓮 初

さつとさるれく花もさつとさあのみも
花 初

花もさるれく花もさつとさあのみも
花 初

早余筆の風文流つとさあのみも
早 余

さつとさるれく花もさつとさあのみも
早 余

追付ふほつとさあのみも
追 付

とむら 昭るる ぬふ 露の 是ゆの 乾
お 露の 八ひき しく しく ふうん 露の
その 是ゆの ぬふ しく しく 露の 音
露の うん しく おお ぬふ や 露の 音
ぬふ あや の しく の 露 あり 軒の 露
あや 明日の 枝 しく しく 露の 秋
その 露 しく み 風う しく しく や 月 露
梧の お しく しく しく 軒や 露 あり

松隣 呂國 砺山 波田 杜鷲 荏艾 梅曦 東居

昔

あや しく しく しく しく しく の 露
ちの 露 しく しく しく の 枝 しく しく
軒の 是 しく しく しく しく しく の 露
その 露 しく しく しく しく しく の 是ゆ
あや しく 白 しく しく しく しく しく
あや しく 月 しく 露の しく しく しく
はゆ しく や しく しく しく しく の 川
ぬふ しく しく しく しく しく しく しく しく

雅琴 波春 貳妹 風氏 松湖 南晉 左山 柳半

のきやうきしけきみりかひのき
 へいよきしきかきかきかき
 月ほくきしきしきしきしき
 山よ入直きしきしきしきしき
 白柳やうやのほきかきかき
 地のしきしきしきしきしき
 花らうきしきしきしきしき

繁茂
 松朗
 至輕
 阿籟
 文車
 月栖
 希井

共

花らありとありあり花もきり
 きしきしきしきしきしきしき
 極きしきしきしきしきしき
 うけしきしきしきしきしき
 ふらしきしきしきしきしき
 ふらしきしきしきしきしき
 花のきりしきしきしきしき

一匙
 白醪
 蕉麻
 うきる
 蓬南
 梅魚
 其山

鐘のきりしきしきしきしき

鳴るるもよのけぬ月の影

清足

月乃一途の啼きをうり

雪菜

雅伽初や聴きもそぬきりけ

箱谷

啼やんくそそきあふくそ

子明

雪ふもぬおとれたぬまに守

志桂

けふもよのけもくめす木のこ

黄山

雪ふもよのけもよのけの影

我亮

廿七

汲る一淵ゆるげらるる雪まの影
尋ねし芙蓉やむのらりしあ

南岳
宗古

雪ふもよのけもよのけの影
あふる一淵ゆるげらるる雪まの影
居るもよのけもよのけの影
枯風やおもひしそるる雪の影
雪ふもよのけもよのけの影

淡菟
佳峰
安尾
けふこ
二柏

松原や風をたふきれと松の聲

映門

初鷹の舞うさういふあまの侍の那

為小

入あまふ舞うさういふあまの侍の那

耳牆

是あまふ舞うさういふあまの侍の那

鼎右

りあまふ舞うさういふあまの侍の那

楚江

瑞きく叫ぶあまの侍の那

英價

共

うさあけるさやあまの侍の那

沮棠

きくさうさあまの侍の那

眠岳

さあまの侍の那

祖郷

きくさうさあまの侍の那

岐嶽

あまの侍の那

惠雨

奈河し鳴福もあまの侍の那

舞巴

ちくさや流乃さういふあまの侍の那

露行

みづゝと人なきのやふ翁とを

春餘

むしきまはしき梅のわづれは

道雄

おのゝやみかしのしと引板の音

知系

散らしの梅のおもひなき柳の風

雨梨

秋の日は海を渡るもさうなわ

呉城

梅のそよようつと秋のゆめつと

周翔

三

庭よりしきつと秋のそよ

藤と

ちのつとあまのつと秋のそよ

俚仙

秋のそよとあまのつと秋のそよ

桐一

風よとあまのつと秋のそよ

石外

あまのつとあまのつと秋のそよ

玉糸

りやとあまのつと秋のそよ

費古

又ぬくと秋のそよ

石亭

あまのつとあまのつと秋のそよ

月底

其友
 一扇
 靜山
 玉波
 李山
 風兮

五葉
 甫田
 女
 止

とうりふさきたらりや
 早あふあふよき井
 ちかきつるやこりおとりてらる

富田

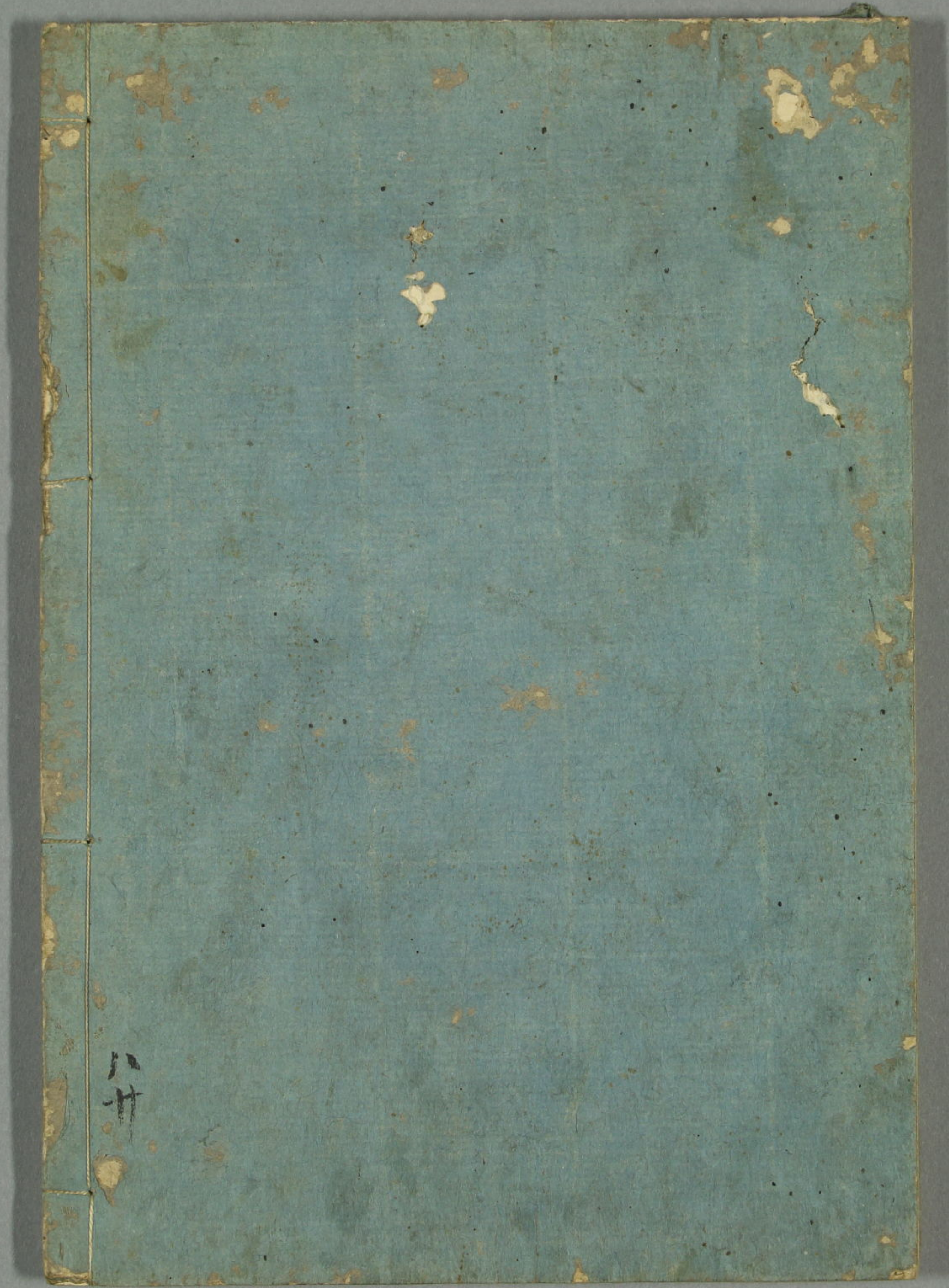
尾州名古屋京町

野村

額看板正面欄板刻御印別類
石印刻御指物彩色摺御好次第
御書物板木彫刻所

尾州名古屋京町
玉鱧堂 中村屋治助

1810



八廿